

平成29年第4回定例会町長あいさつ

平成29年12月8日

御嵩町議会第4回定例会の開会にあたり、町政を巡る諸課題についての所見、報告を申し上げますとともに、今回の定例会に提案いたします案件について申し述べます。

まず、去る10月23日に逝去されました、医療法人忠知会桃井病院 桃井知良名誉院長に心より哀悼の意を表します。桃井院長の功績は、本町における地域医療での活躍だけでなく、行政に対しましてもご尽力いただきましたことは、皆さまご存知のとおりでございます。25年前に、みたけ・みらい・21の設立式典で桃井会長が挨拶された「水の清らかさと青い空、山の緑を大切にし、子どもたちの未来を守れるよう政策提言していきたい」という言葉は、私の心に今もなお強く残っております。私が町長選挙への出馬を考えるべき立場にあることを諭してくれたのも桃井院長であり、今日、私が町長職にあるのも兄のような立場での桃井院長の数多くの言葉があったからと、改めて考えさせられているところです。これらの思いを胸に、今後も議会の皆さまとも前向きな議論を重ねていきたいと考えております。

さて、10月22日に投開票された第48回衆議院議員総選挙では、安倍政権への強い支持というより、野党分裂による側面が大きく表れる結果となり、自民党が284議席を獲得する大勝を果たし、公明党と合わせて3分の2の議席の確保をしました。今後の第4次安倍内閣がどのような政権運営を行うのか注視していきたいと思っております。また、地元岐阜4区では、金子俊平氏と今井雅人氏が当選を果たしており、両氏には、アグレッシブな活躍に期待を寄せるところであります。それに伴い大臣経験のある金子一義氏、藤井孝男氏が政界を勇退されたことは大変残念ではありますが、これからも地元のためにご支援をいただけるものとお聞きしており、淋しくはありますが、心強く感じております。あらためて両氏には、本町発展のため国政においてご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

【福祉医療費高額療養費未請求について】

この度の福祉医療費助成事業に係る高額療養費未請求問題につきましては、町民の皆さまに多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。

この福祉医療費助成制度は、乳幼児、義務教育就学児、重度心身障害者、母子家庭等の母及び児童、父子家庭の父及び児童に対して、医療費の助成を行う制度であり、このうち高額療養費分は、町が一旦立て替えを行い、後日、被保険者から申請書と委任状をいただき、この立て替え払い分を保険者に対して請求し、町の歳入としております。

今回、担当者がこの事務手続きを3年間にわたって怠り、2年の時効成立により立て替え払い分を保険者に請求できず、町に11,707,507円もの多額な損失を出してしまいました。

町民の皆さまをはじめ関係者の方々に対しまして大きく信用を失墜させてしまいましたことは、誠に痛恨の極みであります。この問題の発生を受け、町行政のトップである町長と併せて副町長の給与を減額するため、本定例会に「御嵩町常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案」を上程しております。また関係した職員8名に対し、地方公務員法に基づく懲戒処分を行ったところです。

この多額な損失に対しましては、当事者の職員が全額補てんを行う旨申し出ていますが、その他の関係職員で、現在、負担割合等の協議を続けております。

今後、このようなことが二度とないよう、職員一人ひとりが役割と責任を自覚し、役場組織としてのチェック体制や事務管理体制とコミュニケーションの更なる強化を行い、厳しくも風通しの良い行政を実現させ、信頼回復に努めてまいる所存であります。

【亜炭鉱跡防災対策事業について】

「南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災対策事業」において、最初の空洞充填工事となる第1期①防災工事は、第3回臨時会において工事請負契約締結の議決を頂き、現在、現場作業を進めているところであります。今回発注しました第1期①防災工事は、防災対策事業において対策を実施することができない道路を試験的に対策範囲に含め、より効果的・効率的な手法となるか検証するための工事となります。

また、現在、あゆみ館、中公民館において亜炭鉱跡空洞の調査を実施しております。この2箇所において、空洞が確認された場合、検討を進めております在来工法である限定充填工法以外の工法の適応性を確認するための、空洞充填工事を施工する予定です。

そして、中公民館北側の地域を対象とする第2期、第3期計画地において、亜炭鉱跡空洞の調査を実施するために、地権者の皆さまに町への施工依頼書の提出をお願いしてまいりました。現在、193件中192件の提出をいただいております。

この地域は、亜炭層（空洞）深度分布図において空洞が存在するとされる深度が15mより浅いこと、災害時避難所となる中公民館や救急指定病院が存在すること、多くの住宅が密集する地域であることから、対策の優先度が高い地域として選定させていただいております。

今後の防災対策事業の手法を検討する第1期①防災工事などいち早く進め、対策の優先度の高い第1期、第2期、第3期計画地において、早期に防災工事に着手できるよう努めてまいりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

【新丸山ダム事業について】

10月29日には、新丸山ダム関連工事による県道井尻八百津線の付け替えに伴い、御嵩町側の「守部橋（もりべばし）」、八百津町側の「丸山大橋」が開通しました。県道の橋ではありますが、御嵩町側の橋の命名を岐阜県に要望し、私が名前を付けさせていただきました。

「守部（もりべ）」とは、その土地を守るため、力を尽くしてきた人や団体を示す言葉です。この橋の南に位置する小和沢地区の歴史と大きく関連するものであり、古よりこの

地で頻発した境界争議から村を村民の力で守りぬいてきた歴史。近年には、産業廃棄物処分場計画から豊かな自然と命の水が守られた過去。そして今後は、新丸山ダム completion により下流域住民の安心・安全を守っていく未来。という「守り、守ってきた人々」に対する敬愛の心を込めて命名しました。

また、10月18日には、小和沢地区の地権者との座談会を美濃加茂市牧野の旧小和沢地区住民の集会所にて開催し、新丸山ダム事業の協力を得ながら、産廃問題以降、荒れ放題の田畑を何とか活性化できないか提案したところ、前向きにお聞きいただきました。今後は、地権者にとって、本町にとって、新丸山ダム事業にとって、より良い方向に進めていけたらと考えております。なお、この件につきましては、一般質問があるとの報告を受けております。まだ初めて地権者との協議の場を持ったというだけで、詳細を答弁するほどの具体性はありませんが、現段階での思いはお伝えしたいと思っております。

【東美濃ナンバーの実現について】

自動車の所謂ご当地ナンバーとして、2020年から東美濃ナンバーの導入を目指し、東濃5市と可児市、御嵩町の6市1町とその商工会議所、商工会、市・町議会などの構成による「東美濃ナンバー実現協議会」が、10月12日に山田議長も委員としてご出席のもと、設立いたしました。この11月に知事へ導入の意向表明を行っており、その後、県から国へ導入意向表明書の提出がなされております。年明けの1月には住民の意向調査を行う予定であります。「東美濃」は、歴史的経緯を踏まえれば本町は東美濃地域としてなんら違和感のないものと言えます。また、この東美濃地域はリニア開通などにより今後の更なる発展の可能性があり、6市1町の連携による地域振興が期待されております。東美濃ナンバー導入はその連携の一部であり、本町としても観光誘客やまちづくりの推進へつなげていきたいと考えております。今後、協議会による積極的な宣伝により、各種団体、住民の皆さまの合意形成を図ってまいりますので、実現に向け、皆さまのご理解とご協力をお願いするものであります。

こうしたチャレンジにはタイミングが必須と考えております。未だイメージの湧かない方が大半かと思いますが、来年4月からは美濃加茂市、加茂高校出身の脚本家北川悦吏子氏によるNHKの朝ドラ「半分、青い」が放送されますが、その舞台となるのがこの地方で、架空のまち東美濃市であるようです。従って来年4月以降にはまた違ったムードが出てくるものと考えております。

【新たな歴史資源による観光振興について】

関ヶ原古戦場の魅力発信につなげる岐阜県の補助事業を活用し、関ヶ原の戦い最強の武将可児才蔵の魅力発見事業として、「可児才蔵まつり in 願興寺」を開催いたしました。このまつりのメインイベントの開催日の10月14日には、関ヶ原観光大使でもあるクリス・グレン氏をコーディネーターとして、才蔵が生まれ育った願興寺の小川住職、才蔵の菩提寺である広島県才蔵寺の河村住職によるトークショーが実現いたしました。才蔵の人物像など、興味深いお話をしていただき、お集まりいただきました多くの方に、これまであま

り知られてこなかった才蔵を認知していただき、その魅力を感じていただくことが出来たと思っております。合わせて行いました初の願興寺ライトアップには、予想を超える多くの方にお越しいただき、幻想的に浮かび上がる願興寺を前に、新たな感覚で願興寺の歴史を偲んでいただけたと感じております。

トークショーでクリス氏が、御嵩町の方が御嵩町の歴史資源の魅力に気づき、誇りを持つことが大事と語っておられ、共通の認識を覚えたところであります。このイベントをきっかけに、才蔵寺との交流も深め、可児才蔵と願興寺の魅力を活用し、更なる観光振興を地域の皆さまとともに進めていきたいと考えております。

【願興寺本堂修理事業について】

願興寺本堂修理事業は、事業主体を願興寺とし、11月に国からの補助金交付決定を受け、現在、事業発注の準備を進めております。今年度は主に本堂修理に係る設計業務を行い、来年度から本堂解体工事に着手する予定です。

この修理事業の気運を高めるため、10月28日から12月17日まで、中山道みたけ館にて「十二神将展」を開催しています。願興寺が所有する国指定重要文化財の十二神将像を公開し、町の代表的な文化財である願興寺について多くの皆様に知っていただくとともに、修理事業をご理解いただくための特別展です。

この特別展は、新聞報道等に大きく取り上げていただいたことで、12月1日までに町内はもとより近隣市町村や県外から、約7千人の方々が中山道みたけ館へ来館いただいております。この特別展を通して、多くの方に本町の貴重な文化財を身近に感じていただきましたことに、大変勇気付けられております。

これから約10年という長い年月をかけて取り組んでいく本堂修理の総事業費は、約13億円と試算しております。そのうち、事業主体である願興寺の負担額は約1億円を見込んでいることから、町内有志による「国指定重要文化財願興寺本堂修理保存会」が8月末に発足し、本町の貴重な文化財の保存及び文化振興の寄与を目的に、町内のイベント等に参加し募金活動及び寄付金にご協力いただける方を募っております。

多くの方々に願興寺の現状と文化財の保護・保存の重要性を認識していただくと同時に祖先から受け継がれてきた貴重な歴史的文化遗产を後世へ継承するため、この修理事業に関して皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【里山の活性化について】

今年度より新たに開始した、里山の活性化に向けた二つの新たな取り組みについて、現在までの経過についてご紹介します。

一つ目として、役場の若手職員で構成する「みたけ里山活性化ワーキングチーム」が森林に親しむためのイベントを企画し、それぞれにテーマを持たせたイベントを3回開催したところ、これまでにスタッフを含め延べ156名が参加しております。5月には、ダッチオープンを使ったアウトドア料理教室（鶏肉編）と森林整備体験、7月には、チップロード整備とすいか割り、11月にはダッチオープンを使ったアウトドア料理教室（豚肉編）、

自然観察体験ツアーや薪割り体験を開催いたしました。いずれも親子で参加できる内容となっており、参加した方からは、山で活動することの楽しさを知り、「また参加したい」との声もいただいております。

また、「みたけ里山活性化ワーキングチーム」のメンバーの研修のため、京都府山科区の「まつたけ山復活させ隊」に派遣しており、松茸の生える環境整備のための「地起こし」の方法や、整備された赤松林の視察など、来年度へ向けて大変参考になったとの報告を受けております。

二つ目として、松茸山の入札を行わない代わりに、普段松茸山に入れない方も入れるよう「松茸探し体験」を計画したところ、期間全日の入山が可能なシーズン券の購入者が19名、一日券の購入者が延べ37名となりました。

その他にも、企業との協働による森林づくりでは、この9月に株式会社十六銀行と協定を締結し、県内市町村では最多の5社目となっております。

このように、多くの住民、また企業の方々のお力を借りつつ、様々な形で森林を身近に感じていただくため、今後も工夫を凝らした取り組みを推進していきます。

【指定管理者の指定について】

中児童館及び伏見児童館並びに伏見地区スポーツ施設の3施設を、平成27年4月から平成30年3月までの3年間、指定管理により施設を運営しております。

中・伏見児童館では、18歳未満の児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにするための事業の実施に加え、児童への個別指導、地域組織活動の育成や指導者の養成、子育ての悩み相談・子育て家庭の支援、児童虐待予防における関係機関との連携等を実施してきました。

伏見地区スポーツ施設では、町民のスポーツ及びレクリエーションの振興を通じて、町民の心身の健全な発達を図り、生活文化の向上に資するために、高齢者及び一般の筋力トレーニング教室等を実施してきました。

今回、指定管理期間の3年が満了するに当たり、これまでの実績等から検討した結果、利用状況の成果をあげていること、尚且つ利用者からの信頼も厚いことから、今後も住民のニーズに応えた質の高いサービスを継続的・安定的に提供できると判断し、地域総合型スポーツクラブである「一般社団法人 みたけスポーツ文化倶楽部」を引き続き指定管理者として提案させていただきます。

今後も施設の効果的運用や適正管理について指導、支援を行ってまいります。

【平成29年度一般会計補正予算（第5号）について】

最後に、今回提案いたします平成29年度一般会計補正予算関連について、主な内容をご説明いたします。

まず歳入についてですが、電源立地地域対策交付金の交付決定による1,483万5千円、中山道の宿場に歴史解説看板を設置する事業に充てる歴史街道観光推進環境整備事業費補助金400万円、亜炭鉱跡防災対策事業助成金として9,296万7千円を増額したほか、これ

までの予算執行状況に応じて、国・県支出金のほか、町債などを増額又は減額しております。

歳出につきましては、元気な農業産地構造改革支援事業補助金として 397 万 7 千円、東美濃ナンバー実現協議会負担金として 156 万円、今年度から本格的な修理に着手する願興寺の本堂修理委員会委員報酬として 10 万 1 千円、亜炭鉱跡防災対策工事費として 1 億 4,660 万 7 千円などを増額したほか、人事異動及び給与改定による人件費の補正、これまでの執行状況などに基づいた歳出予算の精査などを行っております。

そのほか、継続費、債務負担行為の補正を行い、補正予算額は、歳入歳出ともに、1,086 万 4 千円の追加となっております。

以上、町政をめぐる諸課題についての所見や報告についてご説明させていただくとともに、平成 29 年度一般会計補正予算の概要についてご説明申し上げます。

今回提案いたしますのは、一般会計補正予算案など予算関係 4 件、条例関係 4 件、その他の議決案件が 2 件、都合 10 件であります。後ほど担当から詳細についてご説明申し上げます。ご審議のほどよろしく願いいたします。